The Japan Association of College English Teachers (JACET)

9月15日㈮　シンポジウム第1室（７３１）

中高大連携の重要性について

On the Importance of Linking High School and College English Education

司会　　浅羽　亮一(明海大学)
提案者　長 勝彦(両国中学)
栗嶋 三千代(都立豊島高校)
宮本 英男（同志社大学）

学習指導要領が改定されて、中学では３年目、高校では２年目に入り、大学では設置基準改定以来３年が経って、吹き荒れた大きな嵐が、それぞれ一応収まって来ているように見られる。

すなわち、中等教育では、「外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」の育成を中心に据えて、新しい教科書を用いた授業も軌道に乗りかけているし、高校では新科目オーラル・コミュニケーションの授業も始まって来ている。大学では自主裁量権の拡大に伴い、語学科目を含むいわゆる教養科目の大幅な見直しが始まり、カリキュラムの改定が相次いでいると聞く。

英語教育に対する厳しい世論に答えて、中から大まで一斉にスタートした感のある教育改革であるが、これを生徒の立場から見るとどうなのだろう。初めて英語と言うものに触れる中学から、完成教育ともいえる大学まで首尾一貫して、無理も無駄もない良い教育を受けているのか。少なくとも８年は教育を受ける生徒から言えば、上級学校に変わる度に、ギクシャクしてはたまらないだろう。連係プレーの大切な所以である。

本テーマは、今回のような教育改革とは関係なく、英語教育の能率を上げるために必要とされ、従来からも英語教員の研究会には必ずと言っていいくらい付き物であった。英語教員最大の団体、全英連は毎年このテーマを取り上げているし、JACET でさえ、５年前の29回大会において、本問題を議論している。

しかし、「近畿中・高・大英語教育連絡協議会」という立派な団体が組織されて、今年で28回目の活発な活動をしている西のほうは別として、他の地区では実際に、どの程度のことが行われて実効を挙げているのだろうか。

何が妨げになっているのか、問題点は何なのかについて、具体的にお話し頂き、相手に対する希望、要望を述べ合って頂けば極めて有意義なシンポジウムになるのではないかと考えている。どのように連携をするのか、中⇔高、高⇔大で意見交換は出来ているのか、意見交換を行う場所、時間のやり繰りの問題をどう解決するか；コミュニケーション重視の授業が出来ないというと真っ先に槍玉に挙げられる入試問題――本当に原因は入試なのか，現在、具体的な授業内容はどうなっているのかなどなど意見交換で考えるべきことは多い。歯に衣着せぬ討論を期待したい。

司会者の発言の後、各パネリストにお一人15～20分発言を頂き、次いでフロアからの質問、意見を10分ほど、その後に、更にパネリストから若干補足を頂ければと思う。

NII-Electronic Library Service